

社外取締役からのメッセージ



外部視点と専門性を生かして、 当社の持続的成長に貢献

社外取締役
小野寺千世

当社は、社員を非常に大切にしている会社だと思います。社会を幸せにするためには、企業も、社員も幸せであるべきとの考え方が根底にあり、こうした温かさは日本の100年企業としての良さであり、日々新鮮に感じています。

昨今、コーポレートガバナンス・コードをはじめとした社外からの要請が活発化していますが、社外取締役への情報提供、トレーニングなども積極的になされています。新中期経営計画期間がスタートし、今後はグループの再編なども視野に入ってくるのが考えられますが、会社法領域などの経験・知見を活用し、今まで以上に当社の企業価値向上に貢献していきたいと考えています。

グローバルに事業を展開する当社のリスクとしては、海外における環境関連の法規制対応などが挙げられます。

より厳格な法規制への対応が求められた場合、いかに対応するかなどを的確に見極め、社外取締役としてリスク回避に積極的に関与していきます。

当社が強化すべきポイントとしては、女性の登用が挙げられます。多様な視点を持つ方々が事業を牽引できる立場になれるよう、社外取締役の立場から支援していきます。また、情報発信の強化も課題です。学生と日々接していますが、将来世代に当社の特長や強みなどを訴求できていないと感じます。人材確保はもちろん、資金調達の観点からも攻めのための守りを固められるよう、取締役会においても外部視点を踏まえた意見を積極的に述べていきたいと考えています。

多様な視点で海外事業の基盤拡充や 開かれた取締役会運営を実現

社外取締役
横井 裕



中国・トルコなどにおける駐在経験を積み重ねてきましたが、現代は企業経営においてもまさに多様性が要求される時代であると考えています。他の社外取締役の方々と異なる経歴であることを最大限生かし、当社の持続的な成長に貢献していきます。

当社は、コーポレートガバナンス・コードには適切に対応していますが、直近においてもガバナンス改善の歩みを続けていると感じます。意思決定の迅速化を目的とし、取締役の総人数を減少させながら、社外取締役は増員したため、取締役会における社外取締役比率が50%に達したことも改善の一例と考えています。

取締役会における議論も活発である一方、独立社外取締役が集う会合も開催されており、独立社外取締役間のコミュニケーションも円滑です。多様な特性を生かし

た取締役会運営に尽力していきたいと考えています。

今年度から新中期経営計画がスタートしましたが、前中計期間はコロナ禍により、人々の生活・意識、産業などに大きな変化が生じた節目です。外部環境はもちろん、社内においても著しい変化が生じたいま、社外に「東洋インキグループとはいかなる会社で、いかなる考えを有しているか」を正しく伝えるアカウンタビリティも非常に重要であり、現在の姿・課題認識を伝えきれているかについても積極的に発信していきたいと考えています。また、当社の持続的成長のためには、海外におけるオペレーション体制の構築、海外事業を担う人材の育成や処遇の改善、正当な評価も重要です。視点が内向きとならぬよう、海外事業を担う人材の育成・処遇改善についても積極的に後押しできればと考えています。